イヤなことは私が喜んで

　久し振りの九州路。休憩に寄った袋という無人駅を知っているよね？そこで衝撃を受けたよ。オーバーではなく。

　『いやなことは私が喜んで』どうしてったのか記憶が定かではないけれど妙に心に残る言葉だった。この言葉の精神を自然に、そして純粋に実践している人を見たんだよ。駅のトイレを掃除していたお婆さんがその人。私に気づいた彼女が「使う？今終わったから」見ると便器は勿論、床も壁も綺麗に磨き拭きあげられていた。頼まれて掃除しているのかとの私の問いかけに彼女は笑いながら「違うよ。汚ない便所ではイヤだもんね、誰だって。気持ちよう使って貰えるように、ネ」と言った。参ったよ。人の世で一番大切なことは愛だけど気負うことなかったんだと識らされた。愛という文字は心を受けるとも見えるよね。私は袋駅のトイレでお婆さんの心を受けた。報酬を求める愛はでないことも識った。

応募時（福岡県62歳）有馬秀一